

# 特別企画

## 伝統の力を未来の力へ — 岡山大学医学部の10年ルネッサンス

許 南 浩

岡山大学 理事・副学長（前医学部長）

### A traditional powerhouse for ambitious undertakings : The 10-year renaissance of Okayama University Medical School

Nam-ho Huh

Vice President, Okayama University

岡山大学医学部は平成22年に創立140周年を迎え、記念式典を催すと同時に、150周年に向けた10年ルネッサンスに取り組むことになりました。記念式典当時の医学部長の立場からその内容を紹介し、ご理解、ご支援をお願いしたいと思います。

#### 基本理念

医学部の理念「あなたのそばに先進医療」、病院の理念「高度な医療をやさしく提供し、優れた医療人を育てる」に共通する岡山医学の伝統のもと、その理念を実践し発展させ得る人材の育成を第一義的な目的とします。

岡山大学医学部はその140年の歴史を通じて1万2千名にのぼる医師を輩出し、高度な先進医療の開発・実践を進めると共に、広く中国・四国の地域医療の中心を担って参りました。この歴史と伝統を今あらためて振り返り、創造的に掘り起こしてアイデンティティ

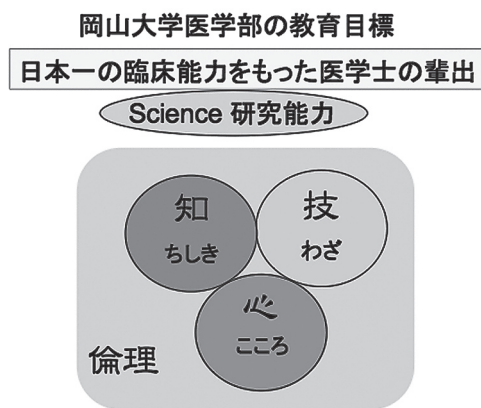
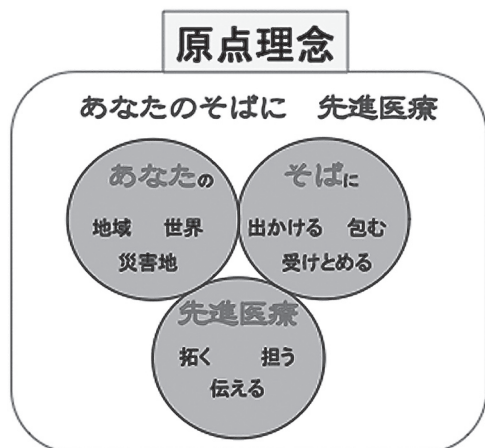
を確立し、自らの使命を再確認すると同時に、それらを具体化する取り組みをしようというのが150周年に向けた10年ルネッサンスです。

その実践に最も好適な体制・環境の整備を行うと同時に、具体化の過程で地域の人々との新たな連携の構築、地域への情報発信、医療における地域貢献力をより高めます。すなわち、広い意味での地域の人々の知恵、労力、資源に支援され協力する在り方を目指します。結果としてその姿は、今世紀後半から22世紀に向かう日本の大学、医学部の在り方を指し示す中心的存在になり、岡山大学全体が目指す世界に羽ばたく「美しい学都」構想の一翼を担うものとなるでしょう。

#### 具体的な取り組み

##### 1. 学生教育の革新的高度化

1) 知、技、心を一体に兼ね備えた日本一の臨床能力をもつ人材の輩出を目的とする。臨床と不可分な基礎的研究者も第一級の人材養成が不可欠である。科



学に裏打ちされた医の知識、高い信頼性と実践的な医療技術、地域医療を含む医療の現状を深く理解し、広く人々、社会に開かれ寄り添う心を育む教育体制を構築する。

## 2. 若手医師、研究者の育成、支援

- 1) 若手の活動環境の整備
- 2) 若手のキャリア支援
- 3) ポジションの拡充と登用

## 3. 岡山大学医学部・病院の伝統的資産の整備と活用

- 1) 医学資料室の整備、拡充、開放促進
- 2) 伝統的建造物の保存、活用、旧態復帰

## 4. 研究、医療の革新的高度化

- 1) 病院及び研究科と協力した先進医療、高度医療の開発・実践
- 2) 人材ネットワークの形成、作業原理の確立等、土壌となる環境整備。On the job training の推進。

## 5. 外部関連団体との新たな連携

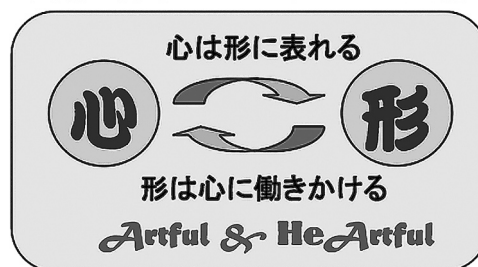
- 1) 行政機関
  - ・岡山県
  - ・岡山市
  - ・その他の中国・四国、関西を中心とする地域行政機関
- 2) 関連医療団体
  - ・医師会
  - ・関連病院長会
  - ・NPO 岡山医師研修支援機構（地域医療部会）
  - ・医療関連企業
  - ・その他の医療関連団体
- 3) 鶴翔会
  - ・より密接で帰属意識の高い組織へ
  - ・ホームカミングデイの継続、充実
- 4) 岡山大学医学部・病院のサポータークラブ創設

## 6. キャンパス整備

心は形に表れ、形は心に影響する。岡山医学の精神を具現し、新たな医学部の在り方を探る場として最も相応しいキャンパスを目指して、長期的視点に立って一連の整備を行う。その基軸は、1) 市民に開放され、協働の場となりうる場、2) 人々が快適に学び働ける場、3) キャンパス自体から知的刺激を受けるような場、とする。このため、一流の建築家にキャンパスグランドデザインの作成を依頼し、長期的視野に立ってキャンパス整備に取り組む。

- 1) 医学部資料室研究棟の改修

## 長期的視野に立ったキャンパス整備



- ・知的刺激を受けるキャンパス
- ・その場にいることが楽しいキャンパス
- ・人々が集い交流するキャンパス

交流から創造へ

資料室・研究棟は昭和7年建造の最も伝統ある建物であり、医学部の象徴でもある。この建物を、形の上での象徴だけでなく、機能の上でも岡山大学医学部を象徴することを目指す。具体的には、1) 資料室を充実させ展示室、復刻した研究室として市民に開放する、2) 1フロアは各種セミナー室として学生や市民の利用をすすめ、後述の記念ホールの機能を補完する、3) 上記の各種ネットワークに入って頂いて連携を強化・実質化する、4) 旧生化学講堂は可能な限りオリジナルの姿を復元し、同時に各種サイズの講義室を設けて教育に活用すると共に、夜間、休日は上記団体の活動、市民に開放する。なお、現在学生サークル棟として使われている東側の建物も一体化して周辺を再開発する。これによって、人々とより繋がる医学部、市民に開放された医学部を目指す。

### 2) 医学部150周年記念ホールの建設

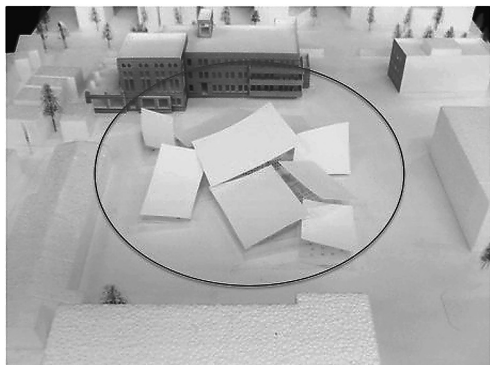
医学部に400～500名収容のホールを建設することは長年の夢であった。医学部・病院関係者は例年多数の学術集会を主催しているが、このようなホールができればそのうちのかなりの例で学内開催が可能となる。また、複数学年に向けた行事や講義、オープンキャンパス時の混雑の解消等、その効果は大きい。さらに夜間、休日は広い駐車場を含めて関連団体主催の会や広く一般市民の行事に開放する。

計画は既に市民からの支援により、現在日本の建築界でトップの位置にある妹島和世氏、西澤立衛氏（SANAA）に基本設計を依頼して進行中である。

### 3) 周辺キャンパス整備

キャンパスの美化は、特定の建物にのみ集中するのではなく、周辺環境と一体化した形で進めるべきもの

### 検討中のデザインの一例



医学資料室研究棟の南側に位置する計画中のホール (SANAA 提供)

である。この視点から、芸術的雰囲気の溢れたキャンパス作りに長期的に取り組むべきである。

「Artful & HeArtful 岡大医学部」として市民に親しまれる福利厚生施設の充実したキャンパスを目指す。

### 7. その他

- 「岡山大学医学部150周年記念誌」の刊行
- 一連の学術集会の開催と支援，記念シンポジウム等

### 計画を推進するために

#### 1. 岡山大学医学部10年ルネッサンス実行委員会の設立

計画を具体化するため，以下のような構成員からな

る実行委員会を設ける。既に委員長には，松井秀樹元医学部長を選任した。一般市民の参画を頂くことは重要である。

- 医系部局長
- 教授会よりの委員
- 若手教員よりの委員
- 名誉教授よりの委員
- 関連団体（岡山医学振興財団，積善会）よりの委員
- 鶴翔会学年代表よりの委員
- 準会員，関連病院よりの委員
- 現役学生よりの委員
- 一般市民よりの委員

#### 2. 基金の設立

- 1) 上記事業に資するため10年間限定の基金を創設する。
- 2) 幅広い人々を対象とした寄付しやすいシステムを構築する。

---

平成23年5月受理

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1

電話：086-235-7393 FAX：086-235-7400

E-mail：namu@md.okayama-u.ac.jp